

5. 指導の実際  
(1) 単元指導計画

関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
・順序数や異種の数量，求大や求小について加減計算の成り立つ場面を日常の事象から見出し，加減の適用場面を拡張しようとする。	・順序数や異種の数量の加減計算の場面について，集合数や同種の数量に置き換えて考える。 ・求大や求小の場面について図などを用いて数量の関係をとらえる。	・順序数や異種の数量の用いられた加減計算の場面を式に表し，その解決ができる。 ・求大や求小の場面を，加減の式に表し計算することができる。	・順序数や異種の数量の用いられた加減計算の場面を式に表して解決してよいことを理解する。 ・求大や求小の場面を加減の式に表せることを理解する。

ねらい	主な学習活動	指導・援助	評価規準
順序数について，加法が適用できることを理解し，問題を解決することができる。	問題(1)を把握し，確かな課題をつかむ。 <u>ず と しき にあらわして，かんがえてみよう。</u> (ず) 14にん 6にん 8にん 問題(2)を問題(1)を既習内容として考える。 <A コース> 個々に見通しをもつて考えていき，小黒板を使って交流する。 ずをつかうと，こたえやなにざんかのみとおしがもてたり，しきをつくってけいさんできたりして，よりかんたんにできる。	C B: 問題(1)をもとにしているが，図がかけない子には，絵の上にブロックを置くことから始めるように助言する。 B A: 図を使って，順序数を集合数に置き換えて考えたことを，分かりやすく説明できるように助言する。	<関・意・態> 順序数についてのたし算やひき算を考へようとする。 <数学的な考え方> 順序数の加減計算の場合も集合数に置き換えて考へている。
異種の数量について，加法や減法の意味を理解し，加法・減法を適用して，問題を解決することができる。	問題(1)を把握し，確かな課題をつかむ。 <u>ちがうものがでてくるときの，もんだいのけいさんのしかたをかんがえよう。</u> いすのかず 子どものかず しき $5 + 6 = 11$ こたえ 11にん いすにすわれる子どものかず 問題(1)で獲得した考え方を問題(2)で適用する。 おきかえておなじものでかんがえてけいさんすればよい。	C B: 既習内容(求差)を想起させ，類題として与えることによって追求していけるようにする。 B A: 問題文だけから把握し，図や式に表して解決するように助言する。	<数学的な考え方> 異種の数量の場合も1対1対応によって同種の数量としてとらえている。
求大の場合について，加法の意味を理解し，加法を適用し，問題を解決することができる。	問題(1)を把握し，確かな課題をつかむ。 <u>え や ず にかいて，たしざんかひきざんかはつきりさせてとこう。</u> コアラ おおい $4 + 6 = 10$ リス こたえ 10ぴき コアラと同じリスの数 コアラより多いリスの数 問題(1)で獲得した考え方を問題(2)で適用する。 ずにすると，なにざんかがわかりやすくなる。	C B: 具体物の操作をさせながら，加法の式に表してよいことに気づけるようにする。 B A: 問題文だけから把握し，図や式に表して解決するように助言する。	<数学的な考え方> 求大の場合について，図から1対1対応の関係を読み取り，加法の式に表してよいことを説明できる。
求小の場合について，減法の意味を理解し，減法を適用して，問題を解決することができる。	問題(1)を把握し，確かな課題をつかむ。 <u>え や ず にかいて，たしざんかひきざんかはつきりさせてとこう。</u> みかんの数 11こ りんごの数 りんごの数より多いみかんの数 6こ しき $11 - 6 = 5$ こたえ りんごは5こある。 問題(1)で獲得した考え方を問題(2)で適用する。 ずにすると，なにざんかがわかりやすくなる。	C B: 具体物の操作をさせながら，加法の式に表してよいことに気づけるようにする。 B A: 問題文だけから把握し，図や式に表して解決するように助言する。	<知識・理解> 求小の場合も減法の式に表してよいことを理解している。
加法，減法を適用する文章題を読んで，加法，減法のどちらを用いればよいかを判断し，適切な演算を用いて解決することができる。	問題(1)を把握し，確かな課題をつかむ。 <u>たしざんかひきざんか，みとおしをもってかんがえよう。</u> あかい花としろい花をあわせた数 16 しろい花の数 あかい花の数 9 しき $16 - 9 = 7$ こたえ しろい花は7本 問題(1)で獲得した考え方を問題(2)で適用する。 ずをつかうと，こたえやなにざんかのみとおしがもてたり，しきをつくってけいさんできたりして，よりかんたんにできる。	C B: 問題(1)をもとにしているが，図がかけない子には，絵の上にブロックを置くことから始めるように助言する。 B A: 絵や図を使い，立式の根拠を分かりやすく話すことができるように助言する。	<数学的な考え方> 日常的な場面を算数的な視点でとらえている。 <表現・処理> 色々な場合について図から関係を読み取り，加法，減法の式に表してよいことを説明できる。